

# 第1回 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議資料

# 目次

次第 03

配布資料一覧 04

魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議設置要綱 05

アドバイザー名簿 06

資料1 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について 07

- 1 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について
- 2 方針改定に向けた検討体制
- 3 方針改定に向けたスケジュール

資料2 埼玉県立高校について 10

- 1 県立高校の数
- 2 学科の設置状況
- 3 多様なタイプの県立高校
- 4 県立高校一覧

資料3 現行方針での主な取組 13

- 1 魅力ある県立学校づくりの方針（平成28年3月策定）
- 2 現行方針での主な取組
  - ・第2章 今後の県立学校における教育の在り方
  - ・第4章 県立学校の活性化・特色化に向けた取組
  - ・第5章 教育環境の整備

資料4 県立高校を取り巻く環境について 18

- 1 中学校卒業生数の減少
- 2 新たな社会への進展
- 3 生徒の多様化
- 4 高校生の進路
- 5 教職員を取り巻く状況の変化
- 6 地域と家庭の状況の変化
- 7 児童・生徒の意識

## 参考資料

別添

- ・魅力ある県立学校づくりの方針（H28策定）
- ・埼玉県5か年計画（ダイジェスト版）
- ・埼玉教育の振興に関する大綱
- ・第3期埼玉県教育振興基本計画（概要版）
- ・国の第4期教育振興基本計画（概要）
- ・高校教育に関する主な国の答申等（概要）
- ・県立高校の特色化に向けたアンケート結果について

# 第1回 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議

## 次 第

令和6年6月4日（火）15：00

場所：教育委員会室

- 1 開会（教育長挨拶）
- 2 アドバイザー紹介
- 3 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について
- 4 埼玉県立高校について
- 5 現行「魅力ある県立学校づくりの方針」での主な取組
- 6 県立高校を取り巻く環境について
- 7 アドバイザーからの意見表明
- 8 その他（事務連絡）
- 9 閉会

## 配布資料一覧

○次第、配布資料一覧、アドバイザー会議設置要綱、アドバイザー名簿

○資料1 「魅力ある県立高校づくりの方針」の改定について

○資料2 埼玉県立高校について

○資料3 現行方針の取組について

○資料4 県立高校を取り巻く環境について

○その他参考資料

- ① 魅力ある県立学校づくりの方針（H28策定）
- ② 埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～  
（ダイジェスト版）
- ③ 埼玉教育の振興に関する大綱

- ④ 第3期埼玉県教育振興基本計画（概要版リーフレット）
- ⑤ 国の第4期教育振興基本計画（概要）
- ⑥ 高校教育に関する主な国の答申等（概要）
- ⑦ 県立高校の特色化に向けたアンケート結果について

## 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議設置要綱

### (設置)

第1条 魅力ある県立学校づくり推進委員会（以下「推進委員会」という。）における魅力ある県立高校づくりの検討事項について、有識者・関係者から幅広い意見を聴取するため、魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議（以下「アドバイザー会議」という。）を設置する。

### (アドバイザーの選任)

第2条 アドバイザーは、学識経験を有する者、学校及び行政機関の関係者のうちから、埼玉県教育委員会教育長が選任するアドバイザー18名以内とする。

### (アドバイザーの任期)

第3条 アドバイザーの任期は、令和7年3月31日までとする。

### (会議の公開)

第4条 アドバイザー会議は、原則として公開とする。ただし、出席したアドバイザーの3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

### (運営)

第5条 アドバイザー会議の運営は、推進委員会委員長及び教育局県立学校部魅力ある高校づくり課において行う。

### (その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行し、令和7年3月31日をもってその効力を失う。

# アドバイザー名簿

氏名	職業等	出欠	氏名	職業等	出欠
益川 弘如	青山学院大学教授	出席 (オンライン)	船橋 幸代	埼玉県P T A連合会副会長	出席 (会場)
小栗 貴弘	跡見学園女子大学教授	欠席	柿沼 光夫	久喜市教育委員会教育長	出席 (オンライン)
渡辺 大輔	埼玉大学ダイバーシティ推進センター 准教授	欠席	中村 敏明	宮代町教育委員会教育長	欠席
澁川 幸加	中央大学文学部教育学専攻特任助教	出席 (会場)	江原 勝美	所沢市立所沢中学校長	出席 (会場)
奥平 博一	角川ドワンゴ学園専務理事 N高等学校長	出席 (オンライン)	池田 靖	県立越ヶ谷高等学校長	出席 (会場)
萩原 裕子	FUTURE DESIGN 副代表	出席 (オンライン)	服部 修	県立秩父農工科学高等学校長	出席 (会場)
内田ひとみ	(株)HUGRES 代表取締役	出席 (会場)	岩田 輝子	県立狭山緑陽高等学校長	出席 (会場)
澤田 修	埼玉県商工会議所連合会 常務理事兼事務局長	出席 (会場)	川邊 友子	県立幸手桜高等学校教諭	出席 (オンライン)
関根 弘子	埼玉県高等学校P T A連合会副会長	出席 (会場)	中川 未来	県立春日部高等学校教諭	欠席

# 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について

# 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について

## 1 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について

現行： 魅力ある県立学校づくりの方針（平成28年3月策定）

策定主体：埼玉県教育委員会

対 象：全県立学校（高校・中学校・特別支援学校）

主な内容：中長期的な視点にたって、平成28年度からの魅力ある県立学校づくりの基本的な考え方を示す。

- ・今後の県立学校における教育の在り方
- ・県立学校の活性化・特色化の方向性
- ・県立学校の活性化・特色化に向けた取組
- ・教育環境の整備 ～県立高校の再編整備～



- ・社会情勢の変化
- ・中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和3年1月）
- ・新しい時代の高校教育の実現に向けた制度改正等
- ・埼玉教育の振興に関する大綱（令和5年9月改定）
- ・埼玉県教育振興基本計画

## 魅力ある県立高校づくりの方針（仮称）

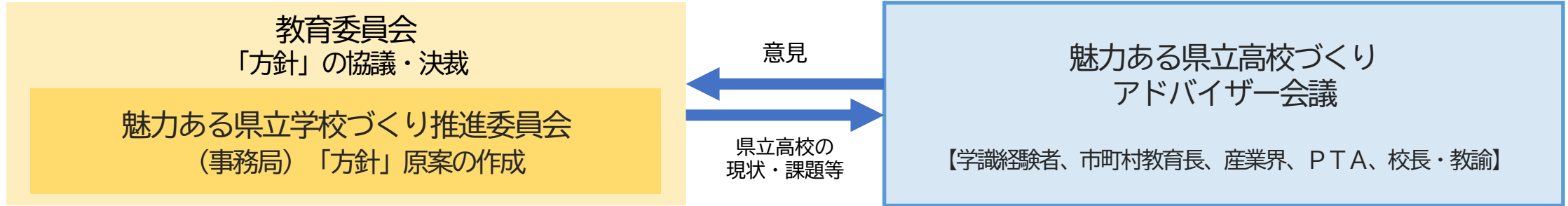
○ 県立高校を取り巻く社会の状況などを踏まえ、「魅力ある県立学校づくりの方針」を改定

※対象：全県立高校（全日制132校、定時制23校、通信制1校）

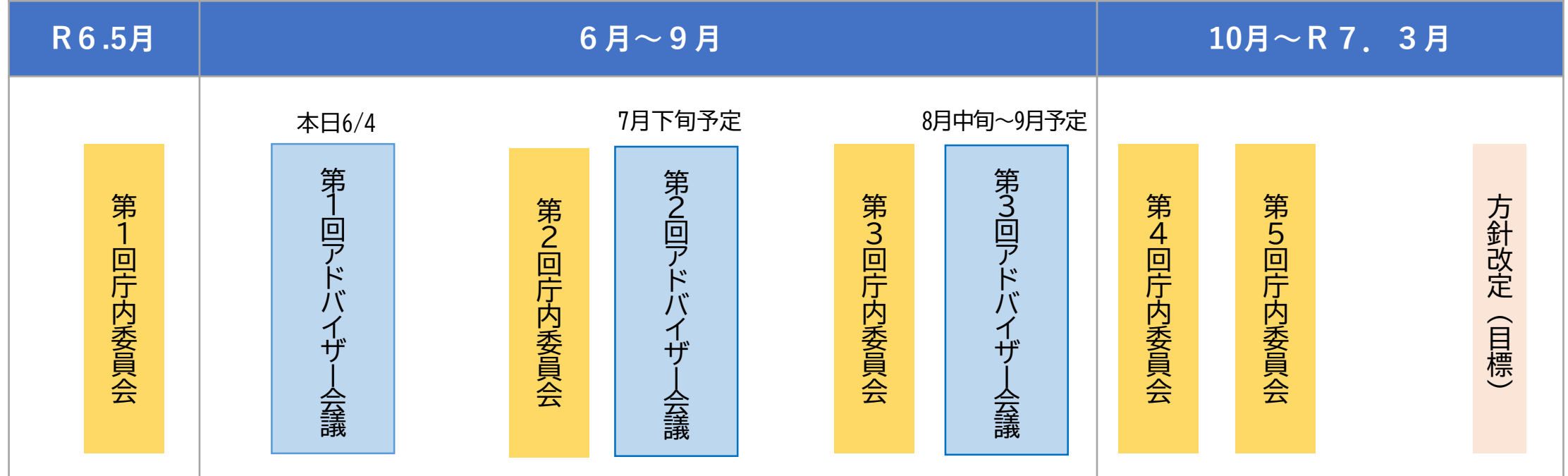


# 「魅力ある県立学校づくりの方針」の改定について

## 2 方針改定に向けた検討体制



## 3 方針改定に向けたスケジュール



## 埼玉県立高校について

# 埼玉県立高校について

埼玉県には、県立高校が137校あり、全日制、定時制、通信制の課程があります。また、普通科、専門学科、総合学科の3つの学科があり、専門学科には農業や工業、商業などの様々な分野があります。現在、県立高校全体で約10万人の生徒が学んでいます。

## 1 県立高校の数

課程	形態	校数	
全日制	単独	114	132
	全・定併置	18	
定時制	単独	4	23
	定・全併置	18	
	定・通併置	1	
通信制	通・定併置	1	1

※114+18+4+1=137校

## 2 学科の設置状況

学科	校数	学科	校数	学科	校数
普通	98	外国語	8	福祉	1
農業	7	美術	3	人文	1
工業	15	音楽	3	国際文化	1
商業	16	書道	1	映像芸術	1
家庭	4	体育	2	舞台芸術	1
看護	1	理数	6	総合学科	9

## 3 多様なタイプの県立高校

### 総合学科・単位制高校



- 幅広い選択科目の中から、生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視しています。
- 総合学科独自の学校設定科目「産業社会と人間」など将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習も重視しています。
- 県内には9校の総合学科が設置され、29校で単位制を導入しています。



### 昼夜開講多部制定時制高校



- 生徒のライフスタイルに合わせて、授業を受ける時間帯を選ぶことができます。
- 卒業までに通常4年間の学びが必要ですが、自分が選択した時間帯以外の科目を修得することで3年間で卒業することも可能となっています。
- 中学校時代に「不登校」などを経験した生徒も在籍していますが、少人数学級や習熟度別指導を実施することにより、安心して学校生活を送ることができる環境を作り出しています。
- 埼玉県内では現在5校設置されています。

### 通信制高校



- 県立通信制高校として大宮中央高校を設置しています。
- 大宮中央高校の通信制には、3学期制の「通信制課程」と2学期制の「単位制による通信制課程」の2種類を用意しています。
- 毎日学校に通う必要はなく、家庭でのレポートによる自学自習を中心に、通信制課程では月2、3回、単位制による通信制課程では週に2、3回のスクーリングを実施しています。
- 仕事を持っている生徒や学校外で文化・スポーツ活動に取り組む生徒など、多様な生徒が通っています。

### 中高一貫校



- 県立併設型中高一貫校として伊奈学園中学・伊奈学園総合高等学校を設置しています。
- 6年間を見通した教育課程を編成し、中学校では3学年の2学期以降、高校数学Ⅰの先取り学習を実施しています。
- また、高校生用の講座を中学生も受講可能にするなど、生徒の進路実現と、将来に渡って学びに向かう力の育成に努めています。



※上記の他にも、複数の専門学科がある高校など特色ある高校を設置

# 埼玉県立高校について

## 4 県立高校一覧

●普通 ●農業 ●工業 ●商業 ●家庭 ●看護 ●外国語・国際文化 ●芸術（音楽、美術、書道等） ●体育 ●理数 ●福祉 ●人文 ●総合

「●」がない学校は普通科単独校

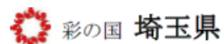
課程	学校名	課程	学校名	課程	学校名	課程	学校名	課程	学校名	課程	学校名
東 部		全	草加南高校 ● ●	全	川越総合高校 ●	全・定	飯能高校	全	浦和東高校	全	北本高校
全・定	春日部高校	全	蓮田松韻高校	全	川越西高校	全	日高高校	全	大宮高校 ● ●	全・定	熊谷高校
全	春日部工業高校 ●	定	羽生高校	全	川越初雁高校	全	富士見高校	全・定	大宮工業高校 ●	全	熊谷工業高校 ●
全	春日部女子高校 ● ●	全	羽生実業高校 ● ●	全	川越南高校	全	ふじみ野高校 ● ●	全	大宮光陵高校 ● ● <sup>*1</sup>	全	熊谷商業高校 ●
全	春日部東高校 ● ●	全	羽生第一高校	全	芸術総合高校 ● <sup>*1</sup>	全	松山高校 ● ●	全・定	大宮商業高校 ● <sup>*2</sup>	全	熊谷女子高校
全・定	久喜高校	全	不動岡高校	全	坂戸高校 ● ●	全	松山女子高校	定・通	大宮中央高校	全	熊谷西高校 ● ●
全	久喜工業高校 ●	全	松伏高校 ● ● <sup>*1</sup>	全	坂戸西高校	全	和光高校	全	大宮東高校 ● ●	全	熊谷農業高校 ●
全	久喜北陽高校 ●	全	三郷高校	全	狭山経済高校 ●	全	和光国際高校 ● ●	全	大宮南高校	全	鴻巣高校 ● ●
全	栗橋北彩高校	全	三郷北高校	全	狭山工業高校 ●	南 部		全	大宮武蔵野高校	全	鴻巣女子高校 ● ●
全・定	越ヶ谷高校	全	三郷工業技術高校 ●	全	狭山清陵高校	全・定	上尾高校 ● ●	全	桶川高校	全	児玉高校 ● ● ●
全	越谷北高校	全	宮代高校	定	狭山緑陽高校 ●	全	上尾鷹の台高校	全	桶川西高校	全	進修館高校 ● ●
全	越谷総合技術高校 ● ● ●	全	八潮高校	全	志木高校	全	上尾橘高校	全	川口高校	全	秩父高校
全	越谷西高校	全	八潮南高校 ● ●	全	鶴ヶ島清風高校	全	上尾南高校	全	川口北高校	全・定	秩父農工科学高校 ● ● ● <sup>*2</sup>
全	越谷東高校	全・定	吉川美南高校 ●	全・定	所沢高校	全	いずみ高校 ● ●	全・定	川口工業高校 ●	全	深谷高校
全	越谷南高校 ● ●	全	鷲宮高校	全	所沢北高校 ● ●	全	伊奈学園総合高校	全	川口青陵高校	全	深谷商業高校 ●
全	幸手桜高校 ●	西 部		全	所沢商業高校 ●	全	岩槻高校 ● ●	全	川口東高校	全	深谷第一高校
全	庄和高校	全・定	朝霞高校	全	所沢中央高校	全	岩槻商業高校 ●	定	戸田翔陽高校 ●	定	吹上秋桜高校 ●
全	白岡高校	全	朝霞西高校	全	所沢西高校	全	岩槻北陵高校	全	常盤高校 ●	全・定	本庄高校
全	杉戸高校	全	入間向陽高校	全	豊岡高校	全・定	浦和高校	全	南陵高校 ● ●	全	皆野高校 ●
全	杉戸農業高校 ●	全・定	小川高校	全	滑川総合高校 ●	全	浦和北高校	全	鳩ヶ谷高校 ● ● ●	全	妻沼高校
全	誠和福祉高校 ● ●	全	越生高校 ● ● <sup>*1</sup>	全	新座高校	全	浦和工業高校 ●	全	与野高校	全	寄居城北高校 ●
全	草加高校	全	川越高校	全	新座総合技術高校 ● ● ●	全	浦和商业高校 ●	全	蕨高校 ● ●		
全	草加西高校	全・定	川越工業高校 ● <sup>*2</sup>	全	新座柳瀬高校	全・定	浦和第一女子高校	北 部			
全	草加東高校	全	川越女子高校	全	鳩山高校 ● ●	全	浦和西高校	全	小鹿野高校 ●		

\*1…松伏（普通、音楽） 越生（普通、美術） 芸術総合（美術、音楽、映像芸術、舞台芸術） 大宮光陵（普通、音楽、芸術、書道） \*2…定時制に普通科の設置あり

## 現行「魅力ある県立学校づくりの方針」での主な取組

# 現行「魅力ある県立学校づくりの方針」での取組について

## 1 魅力ある県立学校づくりの方針（平成28年3月策定）



彩の国 埼玉県

### 魅力ある県立学校づくりの方針

～魅力ある県立学校づくりを推進するために～

平成28年3月  
埼玉県教育委員会

### 目 次

#### 第1章 策定に当たって

1 方針策定の趣旨	1
2 方針策定までの経緯	1
3 方針の実現に向けて	2
4 県立学校をめぐる現状と課題	3
・ 社会状況の変化	
・ 家庭や地域の変化	
・ 教育をめぐる国の動向	
・ 生徒の多様化	
・ 今後の公立中学校卒業生数の推移	
・ 優れた教職員の確保と資質能力の向上	
・ 特別支援教育の充実	

#### 第2章 今後の県立学校における教育の在り方

1 「学びの改革」による確かな学力の育成	7
2 グローバル化に対応した教育の推進	9
3 全国をリードする科学技術教育の推進	10
4 豊かな心と健やかな体の育成	11
5 産業構造の変化に対応する人材の育成	12
6 再チャレンジの意欲に応える教育体制の充実	13
7 地域の新たな核となる学校づくりの推進	14
8 インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進	15

#### 第3章 県立学校の活性化・特色化の方向性

1 県立高校	17
(1) 普通科高校	
(2) 専門高校	
(3) 総合学科高校	
(4) 定時制・通信制高校（課程）	
(5) 専攻科	
◇社会のニーズに対応した特色ある高校の検討	
2 特別支援学校	20
◇社会のニーズに対応した特色ある特別支援学校の検討	

#### 第4章 県立学校の活性化・特色化に向けた取組

1 各学校の活性化・特色化方針の策定	22
2 県教育委員会の支援	23
3 公立中学校との連携等	24
(1) 県教育委員会の取組	
(2) 県立学校の取組	
(3) 市町村教育委員会・中学校の取組	

#### 第5章 教育環境の整備 ～県立高校の再編整備～

1 基本的な考え方	26
2 適正規模・適正配置	26
3 再編整備の方針	27
(1) 社会のニーズに応える特色ある県立高校づくり	
(2) 適正な学校規模の維持による県立高校の活性化	

#### <参考資料>

○ 公立高校の種類	29
○ 特別支援学校の種類	31
○ 用語の解説	32
○ 魅力ある県立学校づくりアドバイザー会議設置要綱	35
○ 魅力ある県立学校づくりアドバイザー名簿	36

文中に※を付した語句については、32～34ページに「用語の解説」がありますので御参照ください。



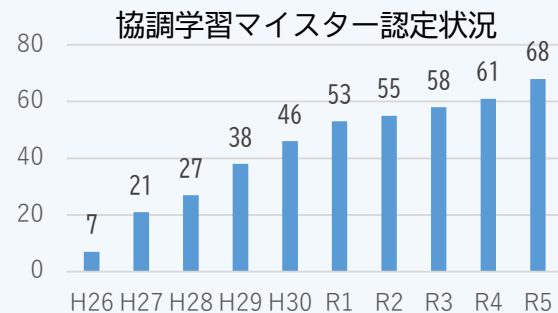
# 現行「魅力ある県立学校づくりの方針」での主な取組

## 2 現行方針での主な取組 第2章 今後の県立学校における教育の在り方

### 1 学びの改革による確かな学力の育成

- ・教育環境デザイン研究所CoREFや大学や研究機関と連携して主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の推進に取り組み、授業や教材の研究及び実践を進めました。
- ・また、主体的・対話的で深い学びに基づく授業改善を推進する人材の養成に努め、令和5年度までに68名の教員を協調学習マイスターに認定しています。
- ・その他、12校をモデル校に指定し、教科等を横断した効果的なカリキュラムマネジメントの研究・実践などを通じて、探究活動を推進しています。

※県教委による協調学習  
マイスター認定データより



### 2 グローバル化に対応した教育の推進

- ・グローバル社会で必要な、豊かな国際感覚、伝統文化や哲学などの教養、課題解決能力などを身に付けた人材の育成を目的に、国内英語集中研修の実施や海外研修への派遣を行い、英語での発信力・交渉力・論理的思考力の向上に努めました。（平成28年度から令和5年度で合計250名海外派遣）
- ・また、国際バカロレア等の特色ある教育の研究・検討を行いました。



### 3 全国をリードする科学技術教育の推進

- ・県立高校の理数科やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校等の生徒を中心に、科学の甲子園や科学系各種オリンピック等への参加などを通して、科学技術に関する興味・関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を身につけ、探究力や発信力の向上に努めました。
- ・また、大宮高校など6校では、広い視野を身に付けた人材育成のため、大学・研究機関との連携や、オンラインを活用した教員同士の交流活動、学校をこえた研究施設での生徒研修会などを実施しました。



### 4 豊かな心と健やかな体の育成

- ・本県独自の道徳教材「彩の国の道徳」を活用し、命を大切にするとともに思いやりの心、夢に向かい希望と勇気をもってやり抜く強い意志など、生徒の心を育む道徳教育を全ての県立高校で実践しました。
- ・健やかな体の育成に向けて、「埼玉県児童生徒の新体力テスト」において一人一人の目標が設定できる体力プロフィールシートを活用してきめ細かな指導を行うとともに、教員対象の実技研修会等の実施などを通して、生徒の体力の向上と学校における体育的活動の充実を推進してきました。

# 現行「魅力ある県立学校づくりの方針」での主な取組

## 2 現行方針での主な取組 第2章 今後の県立学校における教育の在り方

### 5 産業構造の変化に対応する人材の育成

- ・企業や地域産業との連携による就業体験（インターンシップ）を通して、職業観や勤労観を育成し、働くことに対する望ましい見方や考え方の形成を目指しました。
- ・地域の企業・商店街や研究機関等と連携した実践的な職業教育を行い、専門的な知識や技術、技能の習得とともに、商品開発や技術開発を行える専門人材の育成に努めました。



ローソンとの連携事業  
「レモンエクレア」商品企画

### 6 再チャレンジの意欲に応える教育体制の充実

- ・基礎学力に課題を抱える生徒が多く在籍する高校に学習サポーターを配置して、義務教育段階の学習内容の学び直しの取組を行うとともに、日本語指導が必要な生徒が多く在籍する県立高校に日本語支援員を配置し、言語に起因する学校生活の問題の解決に努めました。
- ・また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に配置するとともに、大学生等を身近な教育相談員として派遣することで、適切な相談体制の整備に取り組みました。



### 7 地域の新たな核となる学校づくりの推進

- ・県立学校におけるコミュニティスクールの導入時のポイントや成果などについて、学校を対象とした研修を実施し、地域に根差した学校運営を推進しました。（コミュニティスクールは令和元年度から導入、令和5年度は9校）
- ・学校の力を地域で生かすために、地域連携に携わる教員の研修を行うとともに、地域や社会の人的・物的資源を活用した教育プログラムを作成、学校に共有し、学校で学んだことを実社会で生かす取組を推進してきました。



### 8 インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進

- ・高校における通級による指導が制度化されたことを踏まえ、「県立高校通級指導研究事業」を実施し、県立高校8校において、指導内容や教育課程の研究を行いました。
- ・また、高校における特別支援教育の有効性や地域バランス、ニーズを踏まえ、高校の敷地に、特別支援学校の分校を13校設置し、同年代の高校生との文化祭や体育祭などでの交流及び共同学習などを実施しました。





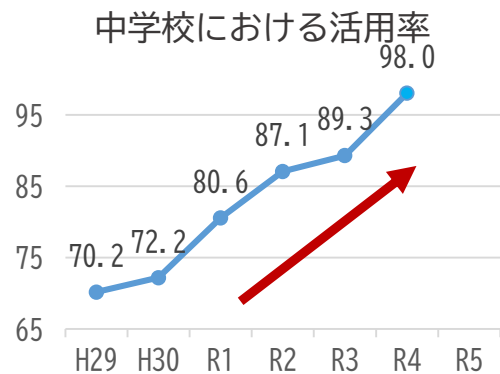
# 現行「魅力ある県立学校づくりの方針」での主な取組

## 第4章 県立学校の活性化・特色化に向けた取組

### 学校の活性化・特色化方針



中学生や保護者に、県立学校の魅力を十分に伝えるため、各県立学校の特色ある学び（教育課程、育成方針など）や基本情報（所在地、学校行事、部活動、進路実績など）をまとめ、毎年公表しています。HPやSNSでも積極的にPRしており、中学校での活用率も年々向上しています。



出典：埼玉県 学校の教育活動に関する調査



※魅力ある高校づくり課によるサイト閲覧数調べによる。

## 第5章 教育環境の整備～県立高校の再編整備～

平成30年4月 魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて（再編整備の進め方）

全日制県立高校の学校数（平成30年度134校）を、3期程度に分けて、令和11年4月を目途に121～124校程度とする。

### 令和5年4月開校 【第1期】

#### ■地域産業を支える人材を育成する高校

**児玉高校**  
児玉白楊高校と児玉高校の統合

#### ■進学を重視した地域と協働する高校

**飯能高校**  
飯能高校と飯能南高校の統合

### 令和8年4月開校予定 【第2期】

#### ■国際感覚を身に付けたグローバル人材を育成する高校

**和光新校（仮称）**  
和光国際高校と和光高校の統合

**岩槻新校（仮称）**  
岩槻高校と岩槻北陵高校の統合

**秩父・皆野新校（仮称）**  
秩父高校と皆野高校の統合

#### ■アニメーション・美術分野で活躍できる人材を育成する高校

**越生・鳩山新校（仮称）**  
越生高校と鳩山高校の統合

#### ■ビジネス分野で活躍できる人材を育成する高校

**八潮新校（仮称）**  
八潮南高校と八潮高校の統合

#### ■先端産業分野で活躍できる人材を育成する高校

**大宮工業・浦和工業新校（仮称）**  
大宮工業高校と浦和工業高校の統合

## 資料4

# 県立高校を取り巻く環境について

# 県立高校を取り巻く環境について

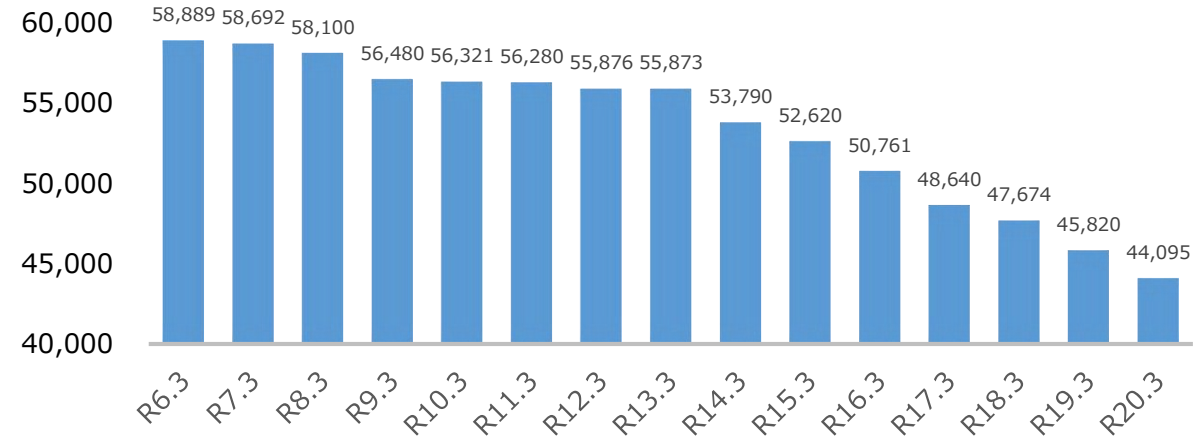
## 1 中学校卒業生数の減少

- ・本県の人口は、令和3年の734.3万人（埼玉県推計人口）まで増加を続けてきましたが、令和4年には733.1万人と減少に転じ、令和22年には約685万人に減少すると予想されています。
- ・また、市町村立中学校卒業生数を見ると、令和6年3月の実数は、約5.9万人となっています。
- ・今後卒業生数の減少が加速し、令和20年（2038年）3月では約4.4万人となることが予想されます。

## 2 新たな社会への進展

- ・経済発展が進む一方で、解決すべき社会的課題は複雑化しています。このような中で、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータといった新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決（温室効果ガス排出の削減など）を両立していくことが求められます。
- ・また、新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活を一変させ、テレワークや、オンライン教育など多様な働き方・暮らし方の実現へつながっており、県立高校でもBYODによる一人一台端末の整備が進んでいます。（端末は令和6年度中に全生徒に配備予定。）
- ・このような中で、今後、デジタル技術の活用やデジタルインフラなどの戦略的な構築を進め、そこに新しい価値を生み出す変革、すなわちデジタルトランスフォーメーション（DX）が求められます。
- ・また、問題発見能力や的確な予測、革新性といった能力が一層必要になると予測され、労働市場の在り方や働く人に必要とされるスキルも変容することが見通されます。

### 市町村立中学校卒業生数推計



※「義務教育人口推計結果報告書（令和6～11年度）」の中学校等推計生徒数第3学年から。  
R13.3以降は魅力ある高校づくり課による推計。

現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、

将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

#### 56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性※	1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル：口頭	1.08
基礎スキル※	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
：	：	：	：

※基礎スキル：広々様々なことを、正確に、早くできるスキル

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。  
(出所) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究Ⅱ」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”、Hasan Bakhshi et al., “The future of skills: Employment in 2030”等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

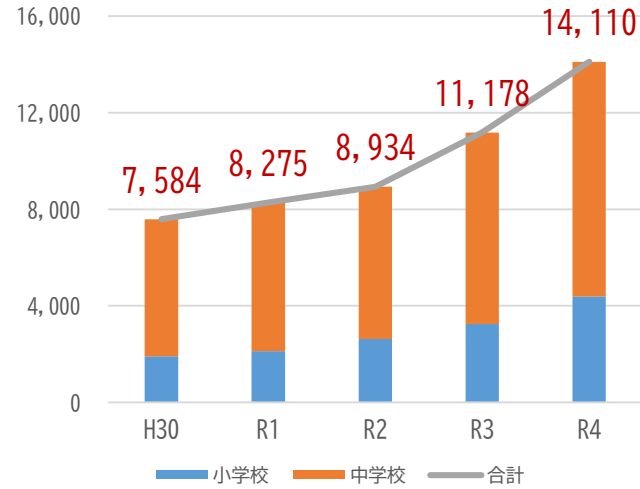
出典：未来人材会議「中間とりまとめ」資料P20（令和5年4月、経済産業省）

# 県立高校を取り巻く環境について

## 3 生徒の多様化

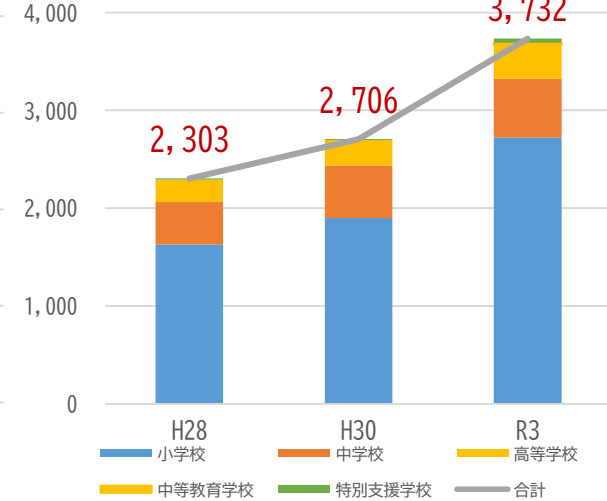
- 本県の特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は増加傾向にあり、令和4年度は平成29年度（2017年度）の約1.3倍の2万人超となり、小・中学校、高等学校の通常の学級においても、通級による指導を受けている児童生徒が増加しています。
- また、不登校児童生徒やいじめの認知件数も増加の傾向にあり、令和4年度の本県の小・中学校不登校児童生徒は約14,000人となっています。
- さらに、本県における日本語指導が必要な児童生徒は、約3,700人で平成28年の約1.6倍に相当します。今後、在留外国人の増加が見込まれ、それに伴い外国人児童生徒の増加も予想されます。
- そのほか、ヤングケアラーや、LGBTQの児童生徒への支援など、教育をめぐるニーズは多様化しており、対応が求められています。

不登校児童・生徒数の推移



出典：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

日本語指導が必要な児童・生徒数の推移

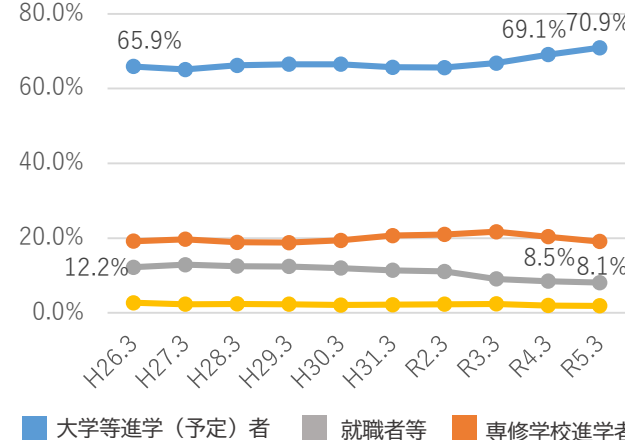


出典：日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査

## 4 高校生の進路

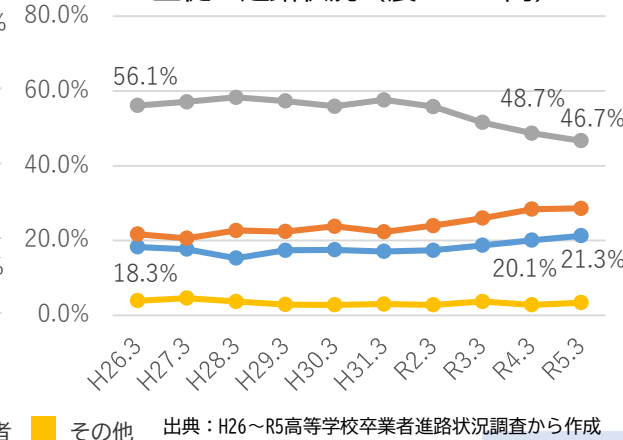
- 公立高校の進路状況について過去10年の推移をみると、平成26年3月は、普通科の生徒の大学等進学者は60%台半ば、専修学校等進学者は20%前後、就職者等は10%台前半でしたが、大学等進学者は令和3年以降上昇し、令和5年3月には70%を超え、一方、就職者等は低下しています。
- また、農業・工業・商業学科を合わせた生徒では、就職者等は平成26年3月は、56.1%だったのが、令和2年から下降し、令和5年3月は46.7%となりました。
- そのほか、大学入学者選抜については、学力の3要素（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する選抜への改善が進められており、総合型選抜等を導入する大学が増加傾向となっています。

生徒の進路状況（普通科）



■ 大学等進学（予定）者 ■ 就職者等 ■ 専修学校進学者 ■ その他

生徒の進路状況（農・工・商）



出典：H26～R5高等学校卒業生進路状況調査から作成

# 県立高校を取り巻く環境について

## 5 教職員を取り巻く状況の変化

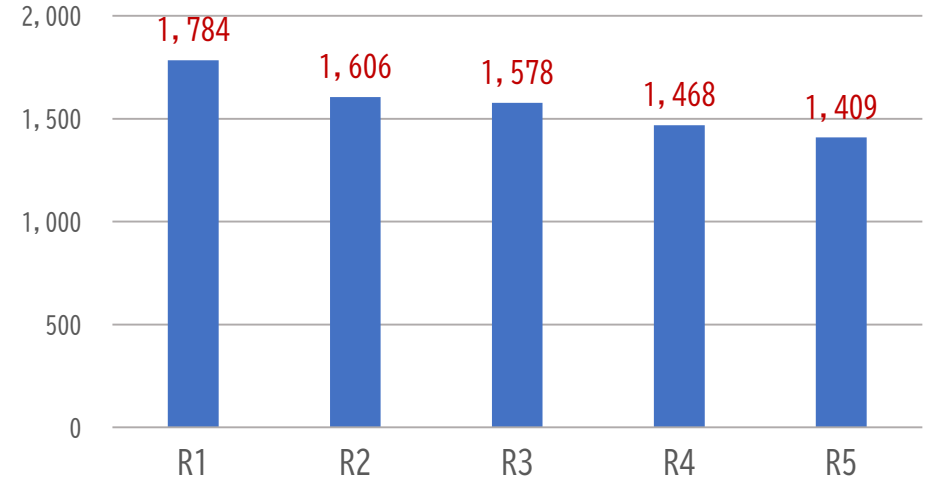
- 我が国の教員の勤務時間はOECDによる調査では調査参加国の中で最長であり、教職員の児童生徒への献身的な姿勢とともに、社会の変化や要請を踏まえ、学校の役割が拡大し、教職員の負担が増加していることが指摘されています。
- いわゆる超過勤務に相当する時間外在校等時間が月45時間を超えている高等学校教員の割合は、令和5年11月は26.6%となっています。また、時間外在校等時間が年360時間を超えた割合は令和4年度で46.1%となっています。
- また、近年の大量退職等に伴う採用者数の増加や教員採用選考試験の受験者数の減少等を要因とした、採用倍率の低下や教員不足といった課題も生じています。

## 6 地域と家庭の状況の変化

- 地域人口の減少や高齢化率の上昇でコミュニティの維持が困難となり、人と人との結び付きが希薄化し、地域での人間関係・信頼関係の構築が難しくなるという指摘があります。
- 一方で、生徒が、社会のつながりの中で学び、自分の力で人生や社会をより良くできるという実感を持てるよう、学校には、社会と連携・協働した教育活動をより充実させることが求められます。

今後の生徒数の減少、社会の進展、生徒の多様化など、県立高校を取り巻く環境が変化している中で、魅力ある高校づくりを進めていくために、県立高校の活性化・特色化を推進する必要がある。

教員採用選考試験志願者数（高等学校）



（試験実施年度） ※埼玉県公立学校教員採用選考試験結果より（抜粋）

## 7 児童・生徒の意識

- 令和5年12月19日から令和6年1月26日の間、県内の小学5・6年生、中学生及び高校生とその保護者を対象に、高校で勉強したいことや、学んでみたい学校などについてのアンケート調査を実施しました。
- 中学生では、高校で勉強したいこととして、「様々な教科にまんべんなく取り組み、幅広い知識を身に付ける勉強」や「学んだ知識を総合的に活用し考える勉強」を選択する割合が比較的高く、学んでみたい学校として、「教科や科目が自ら選択できる総合学科や単位制の高校」を選択する割合が比較的高くなっています。

※アンケート結果の詳細は参考資料⑦参照。